

平成 25～27 年度文部科学省特別経費

「質の高い学校教育・保育の一体的提供を保障するための保育・教育課程の構築」事業



YO-HO [東京学芸大学]
幼保連携プロジェクト

Development the curriculum for ensuring the integrated
support of quality early childhood education and care

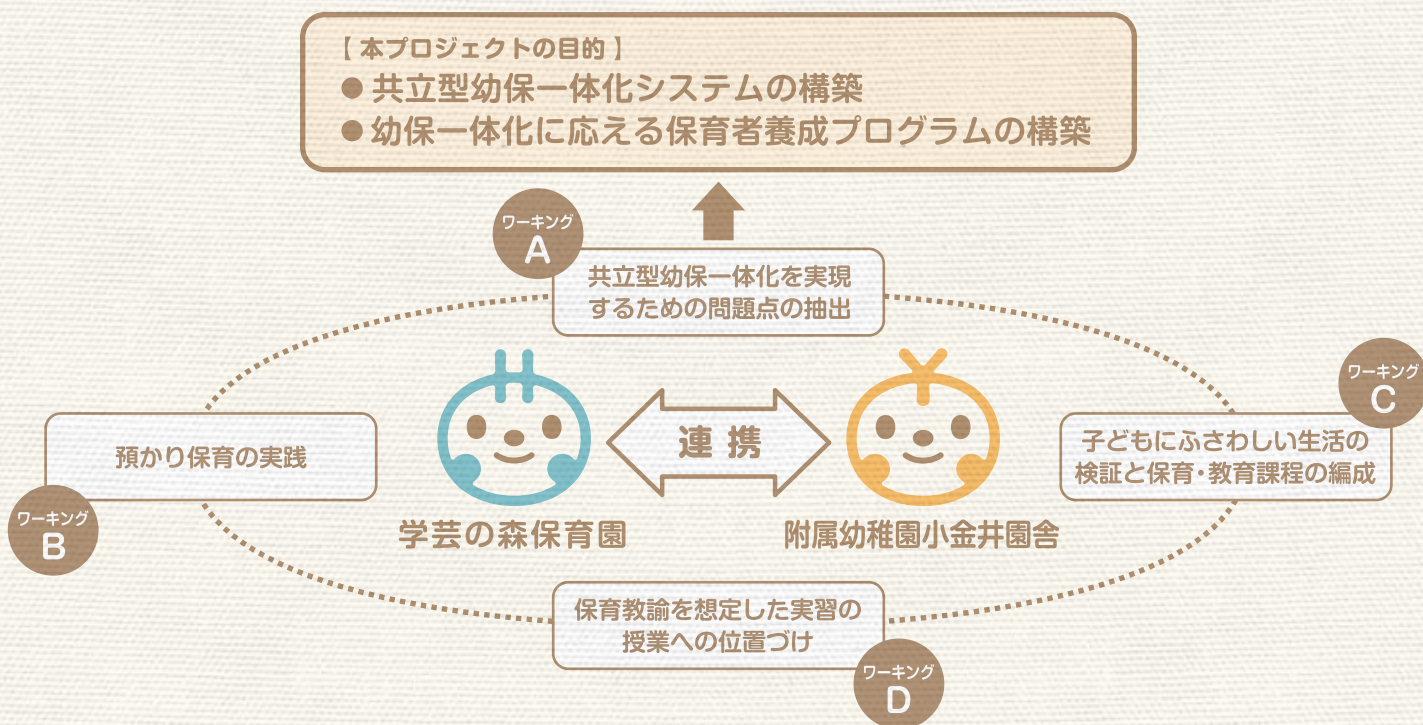
国立大学法人東京学芸大学

幼保連携プロジェクトの目的



本プロジェクト目的は、幼保一体化の在り方を実践的に検証しながら、質の高い学校教育・保育の一体的提供を目的とする保育園・幼稚園における保育・教育課程を構築すること、幼保連携において必要となる学生の学びとそれに応える保育者養成プログラムのモデルを提案することです。子ども・子育て新システムに関連する基本制度等に基づく関連法案が制定され、その実現に向けた取り組みは喫緊の課題です。幼稚園と保育所が連携を深めていく中で、保育・教育内容及び保育者養成の在り方を検討することは、学校教育・保

育現場において全ての子どもの育ちが等しく保障されるために重要な教育課題となっています。東京学芸大学では、平成 25 から 27 年度の 3 年間、文部科学省特別経費により「質の高い学校教育・保育の一体的提供を保障するための保育・教育課程の構築」(通称幼保連携プロジェクト)に取り組み、附属幼稚園小金井園舎と隣接する学芸の森保育園がそれぞれ独立した形態(共立型)をとりながら、両者の資源を最大限に活用し合う体制づくりを目指した連携の在り方を実践的に検証しました。



〔成果1〕 共立型幼保一体化システムの構築

● 子どもにふさわしい生活の検証と保育・教育課程の編成

本プロジェクトでは、幼保連携の実施状況を調査するための質問紙調査や実施園へのヒアリング調査を実施しました。また、共立型幼保一体化という形の幼保連携の実践として、附属幼稚園小金井園舎に小規模保育所である学芸の森保育園に在籍する2名が通園する取り組みを実践しました。こ

れらの調査や対象児の観察記録などから、保育・教育課程を編成しました。保育・教育課程は専門研究員を中心に資料を参考に大枠を作成し、本プロジェクトで観察した実際の子どもの姿から明らかになった配慮事項等を反映させて作成したものです（詳細はプロジェクト Web サイト参照）。

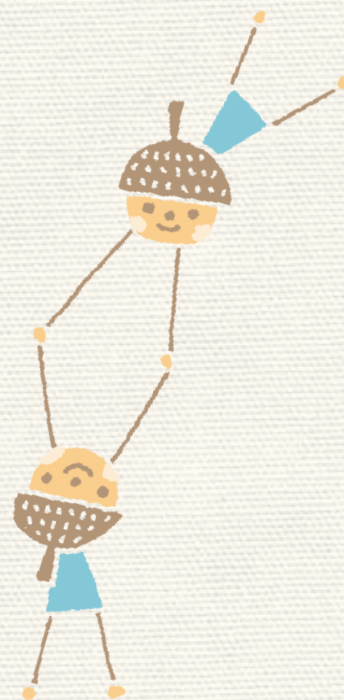
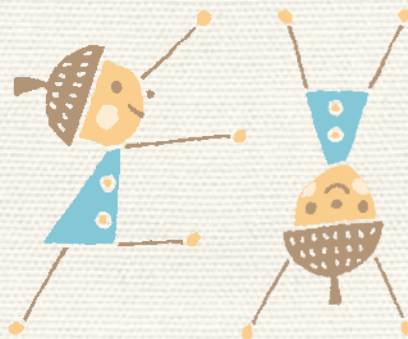
< 保育・教育課程編成にあたって留意した点 >

- ・ 養護と教育の相互性のある保育・教育課程
- ・ 家庭との連携
- ・ 幼保の教職員間の配慮事項（保育内容や子どもの情報共有等）
- ・ 地域との連携
- ・ コアタイムを幼稚園で過ごす3～5歳児の時期と場面ごとの配慮事項

生活場面…登降園・食事・午睡・一斉活動・長期休業など

人間関係…幼稚園と保育園それぞれの保育者や仲間との関係

遊び…幼稚園と保育所それぞれの特性を生かした遊び





● 合同保育の実践

平成 27 年度は幼保の 4 歳児を対象とした合同保育を実施しました。保育園 4 歳児 8 名が幼稚園児と一緒に活動し、10 月には附属幼稚園運動会で一緒にダンスを踊りました。運動会当日は一体感のある演技を披露し、合同保育を通して幼保がお互いを身近な存在と感じられるよう

になりました。また、この取り組みを通して教職員間の交流の機会が増えたことで、保育者にとっても連携しやすい環境となり、幼保の合同保育を通じた連携を今後も継続していく基盤を整えることができました。

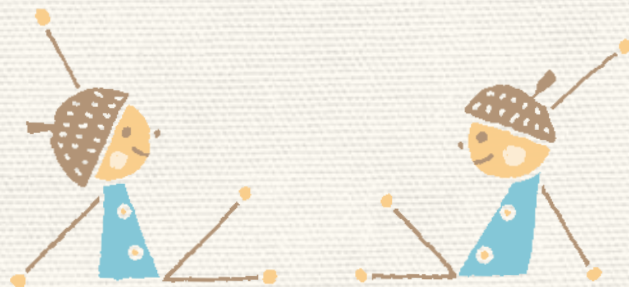
● 預かり保育の実践

これまで附属幼稚園では預かり保育を行っておりませんでした。そこで当初は、附属幼稚園保護者の時間帯（降園後に実施）に、幼稚園児を保育園を運営する NPO が保育園に隣接する建物で預かる「預かり（一時保育）」を実施しました。利用者は回数を重ねる毎に増加、保護者のアンケート調査からは「預かり（一時保育）」を実施することによって「育児負担感・不安感」の軽減がみられました。実施形態も保護者がより利用しやすい形態を

検討し、保護者会の始まる前に親子で利用できるように、預かり開始前に保育場所を開放しました。

また平成 27 年度 2 学期からは保護者会時以外で幼稚園の教育時間後に保育園で幼児を預かる「預かり」も月 2 ～ 3 回の頻度で実施しました。

保護者のニーズはあるものの、幼稚園単独での「預かり保育」を実施することが人的物理的に困難ではありましたが、保育園と連携により実現が可能となりました。



〔成果2〕保育者養成プログラムの構築

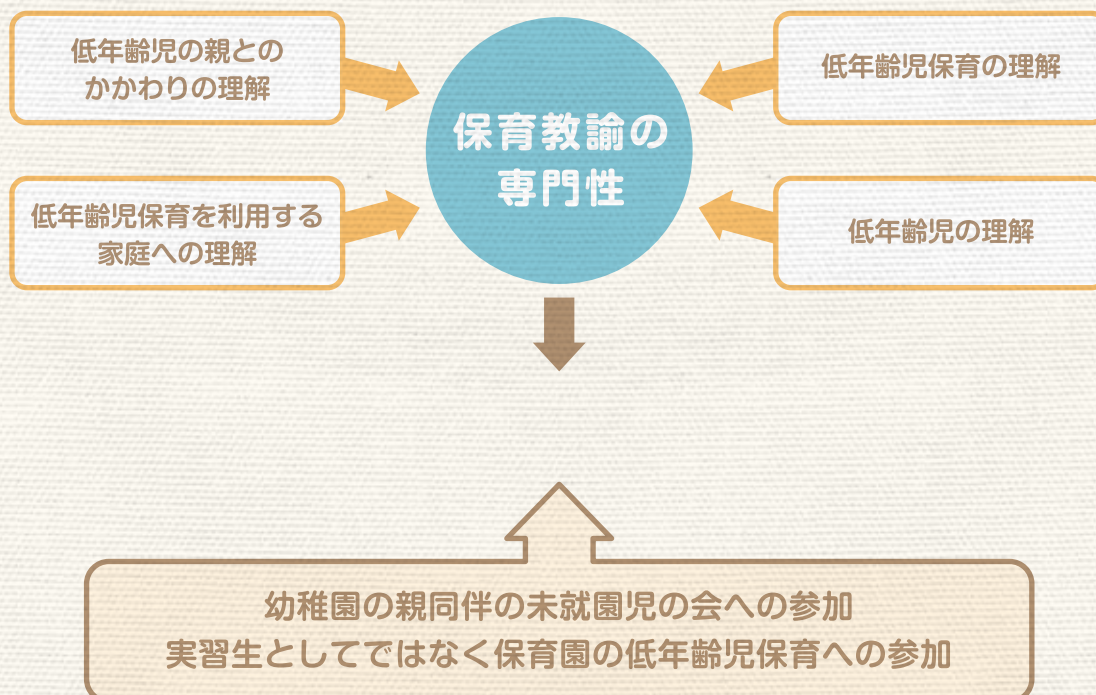


保育教諭の専門性は、幼稚園教員と保育所保育士の専門性とも重なり多岐にわたります。特に低年齢児の保育について学び、集団保育での子どもの姿から、低年齢児保育の特徴の理解だけにとどまらず、就労しながら子育てをする親への理解と家庭での生活の実態を把握することが必要です。

本プロジェクトでは、保育教諭を想定した保育者養成科目における実習を大学の養成カリキュ

ラムに位置づけ、効果を検証しました。集団保育場面での保育者と子どものかかわりだけではなく、家庭での親と子どものかかわりの特徴についても理解することが、低年齢児保育における保育者の役割についての理解をより深めることが期待できます。本プロジェクトでは、このような理解を推進するカリキュラムを実践し、提案しました(詳細はプロジェクトWebサイト参照)。

< 保育者養成プログラムの特徴 >



プロジェクトメンバー一覧（平成27年度）



【推進委員会組織】

- 岸 学 副学長（研究・評価担当）
- 平野 朝久 総合教育科学系長
- 大竹 美登利 生活科学講座に所属する教員
- 吉田 伊津美 教育学講座に所属する教員
- 倉持 清美 生活科学講座に所属する教員
- 岩立 京子 附属幼稚園園長
- 松田 恵示 学芸の森保育園理事長
- 木村 優 教育研究支援部長

【プロジェクトメンバー】（研究統括委員会） * コアメンバー

- 吉田 伊津美 * 総合教育科学系教育学講座幼児教育学分野准教授（本プロジェクト代表）
- 倉持 清美 * 総合教育科学系生活科学講座生活科学分野教授
- 鳴海 多恵子 * 東京学芸大学名誉教授
- 大竹 美登利 * 総合教育科学系生活科学講座家庭科教育学分野教授
- 松田 恵示 芸術スポーツ科学系健康スポーツ科学講座体育学分野教授
- 岩立 京子 * 総合教育科学系教育学講座幼児教育学分野教授
- 福元 真由美 総合教育科学系教育学講座幼児教育学分野准教授
- 田代 幸代 附属幼稚園小金井園舎副園長
- 高橋 真生 東京学芸大こども未来研究所学芸の森保育園担当
- 村山 大樹 東京学芸大こども未来研究所学芸の森保育園担当
- 真木 千壽子 学芸の森保育園園長
- 無藤 隆 白梅学園大学子ども学部発達臨床学科教授

【専門研究員】

- 永瀬 祐美子
- 叶内 茜
- 木暮 ゆり

【附属幼稚園小金井園舎】

- 岩立 京子 園長
- 田代 幸代 副園長
- 山田 有希子 4歳児クラス担任
- 井口 恵美 4歳児クラス担任
- 中野 圭祐 5歳児クラス担任
- 矢口 香里 （教育支援員）
- 宇賀神 彩 （教育支援員）

【学芸の森保育園】

- 松田 恵示 理事長
- 真木 千壽子 園長
- 菊地 奈津美 3、4、5歳児担任

【発行】2016年2月20日

国立大学法人東京学芸大学 幼保連携プロジェクト

代表：吉田 伊津美 （教育学講座幼児教育学分野）

副代表：倉持 清美 （生活科学講座生活科学分野）

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~youhoren/index.html>

【デザイン】 正木 賢一 （美術・書道講座美術分野）